



TIS

TIS INTEC Group

Go Beyond

2020年3月期第3四半期 決算説明資料

2020.2.6

TIS株式会社

© 2020 TIS Inc.



(2020年2月6日開催 アナリスト向け決算説明電話会議 プレゼンテーション要旨)

- ・TISの安達です。よろしくお願いいたします。
- ・それでは、本日15時半に発表いたしました、当社の第3四半期決算の内容につきまして、決算説明資料を使って説明させていただきます。

2020年3月期第3四半期（累計） 業績概要

2020年3月期 業績見通し

参考資料

（説明省略）

・良好な事業環境を背景に、事業拡大や収益性向上の取組み等により、前年同期比増収増益。

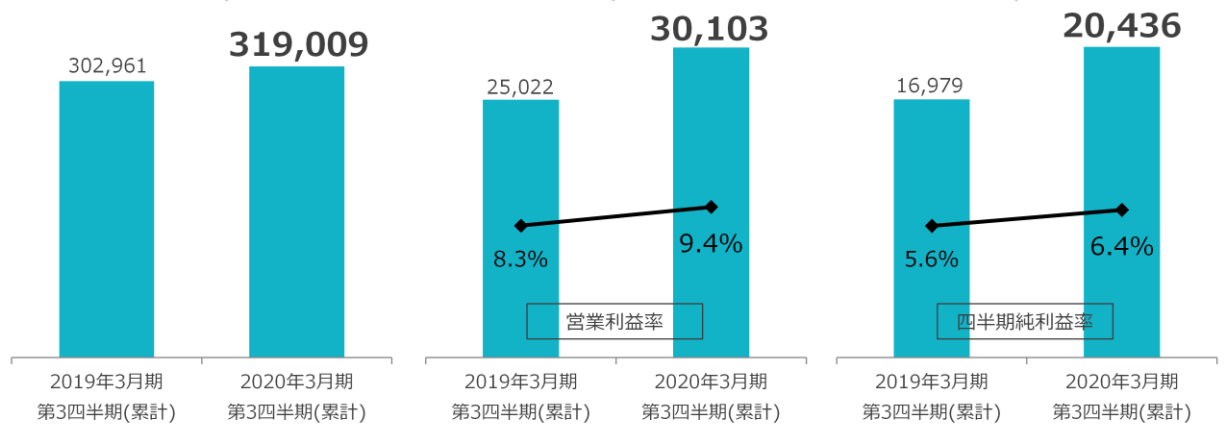
（単位：百万円）

売上高

営業利益

親会社株主に帰属する 四半期純利益

● 前年同期比 +16,048百万円（+5.3%） ● 前年同期比 +5,080百万円（+20.3%） ● 前年同期比 +3,456百万円（+20.4%）



IT投資動向が強まりを見せる分野において顧客ニーズを的確に捉えたこと等が牽引し、前年同期比増収。

増収効果や収益性向上による売上総利益の増加が、構造転換に向けた対応強化等に伴う販管費の増加を吸収し、前年同期比増益。

営業利益の増加等に伴い、前年同期比増益。

（特別利益：7,232百万円
（前年同期比 ▲7,128百万円）
特別損失：7,196百万円
（前年同期比 ▲6,051百万円）

© 2020 TIS Inc.

3

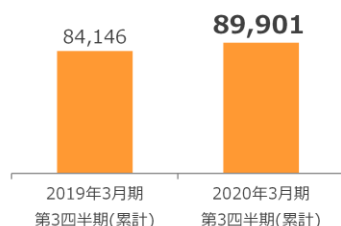
- ・まず、3ページをご覧ください。
- ・当第3四半期累計期間の業績は、上期に引き続き全体としては好調な決算となりました。
- ・売上高については3,190億円と、IT投資が強まりを見せる分野において顧客ニーズを的確に捉えたこと等が牽引し、前年同期比で5.3%の増収となりました。
- ・営業利益は前年同期比20.3%増の301億円となり、営業利益率は8.3%から9.4%に向上しました。
- ・親会社株主に帰属する四半期純利益についても同じように大きく増加し、前年同期比20.4%増の204億円となりました。
- ・なお、当第3四半期累計期間において特別利益72億円、特別損失71億円を計上しましたが、主な内容は2Q決算すでにご説明したとおり、特別利益は投資有価証券売却益54億円であり、特別損失は当社グループの次世代オフィス構築計画を踏まえて計上した東京地区におけるグループのオフィス移転・集約に係る費用、及び、一部既存拠点の整理に係る減損損失の合計41億円です。
- ・また、1月21日に公表したSequent社の子会社化について、株式取得に伴い発生したのれんの処理に関して、当第3四半期に約7億円の特別損失を計上、同第4四半期に約15億円の特別損失を計上する予定であることを合わせてご案内しておきます。

(単位：百万円)

サービスIT

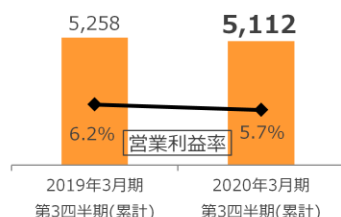
売上高

● 前年同期比 +5,754百万円 (+6.8%)



営業利益

● 前年同期比 ▲146百万円 (▲2.8%)

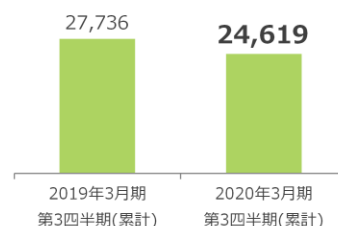


売上高は決済関連ビジネスの拡大を中心として前年同期比増収。
営業利益は事業強化のための先行投資費用増加に加え、プラットフォーム事業のさらなる強化に向けた戦略見直しに伴う損失計上等により前年同期比減益。

BPO

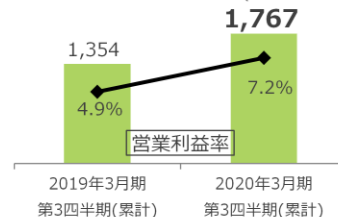
売上高

● 前年同期比 ▲3,116百万円 (▲11.2%)



営業利益

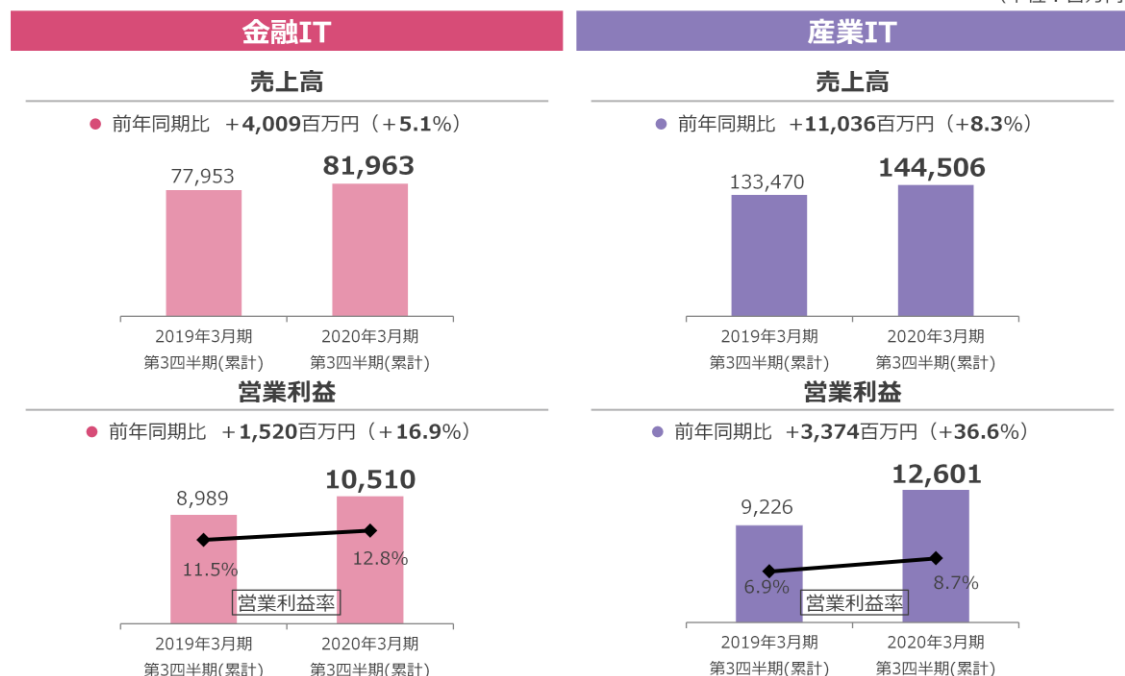
● 前年同期比 +413百万円 (+30.5%)



前期にコア事業への集中の一環として実施した子会社売却の影響が大きく、前年同期比減収ながら増益。

- ・続いて4ページからが、主要なセグメント別の状況です。上期の傾向と大きく変わりはありません。
- ・「サービスIT」は、決済関連ビジネスの拡大を中心に売上高は前年同期比6.8%増の899億円と好調に推移しました。一方、営業利益については事業強化のための先行投資費用の増加に加え、第2四半期に発生した不採算案件及びプラットフォーム事業のさらなる強化に向けた戦略見直しに伴う損失計上が影響し、前年同期比2.8%減の51億円となりました。
- ・「BPO」は、売上高は前期にコア事業への集中の一環として実施した子会社売却の影響により前年同期比 11.2%減の246億円となりましたが、営業利益は収益性向上に伴い前年同期比30.5%増の17億円となりました。

(単位：百万円)



大型開発案件の反動減の影響はあったものの、根幹先顧客におけるIT投資拡大の動き等を受けて前年同期比増収増益。

エネルギー系や製造業系の根幹先顧客をはじめ、幅広い業種におけるIT投資拡大の動き等により、前年同期比増収増益。

※特定顧客向け提供サービスに活用するノウハウが産業系から金融系に変更となったことに伴い、当該顧客との取引は前期は産業IT、当期は金融ITに計上されています。

© 2020 TIS Inc.

各セグメントの売上高はセグメント間の売上高を含んだ数値です。

5

・5ページの方は「金融IT」と「産業IT」です。

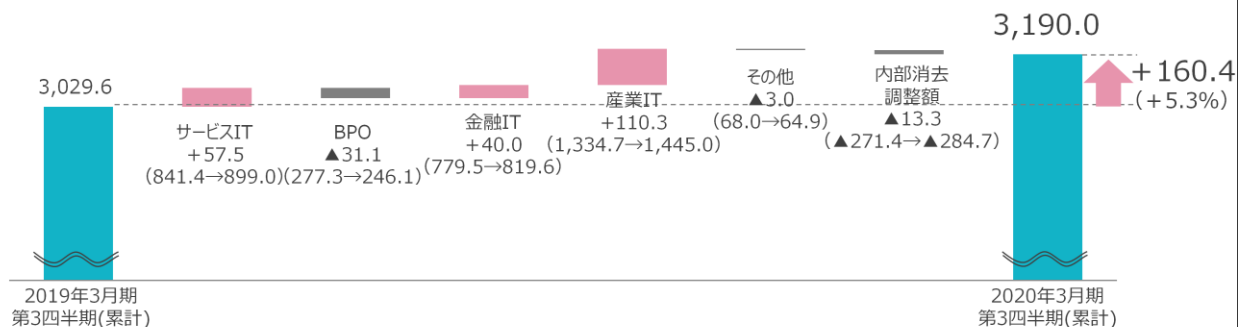
・「金融IT」は、期初想定でも織り込んでいるクレジットカード系の大型開発案件の反動減の影響があったものの、根幹先顧客におけるIT投資拡大の動き等がそれを吸収して前年同期比増収増益、好調に推移しました。売上高は前年同期比5.1%増の819億円、営業利益は前年同期比16.9%増の105億円となりました。

・「産業IT」は、エネルギー系や製造業系の根幹先製造業をはじめとする幅広い顧客のIT投資拡大の動き等により、売上高は前年同期比8.3%増の1,445億円、営業利益は前年同期比36.6%増の126億円となりました。

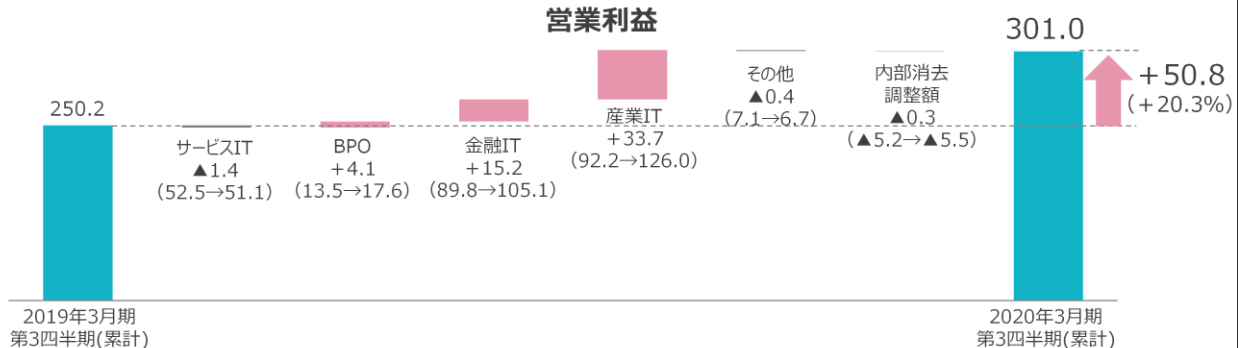
2020年3月期第3四半期（累計） 売上高・営業利益増減分析

（単位：億円）

売上高

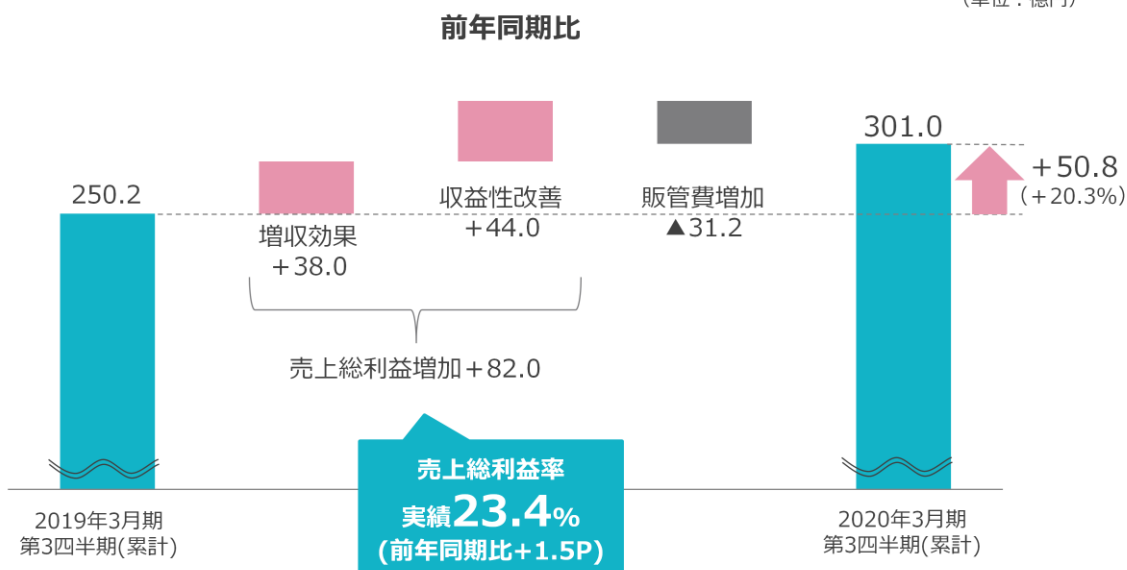


営業利益



（説明省略）

（単位：億円）



構造転換推進のための先行投資コスト：前年同期比+13.9

- ✓「新サービス創出のためのソフトウェア投資」
 - ✓「構造転換を促進するための人財投資」
 - ✓「先端技術獲得のための研究開発投資」
- に関するコスト

早期認知獲得のためのブランド関連コスト：前年同期比+0.8

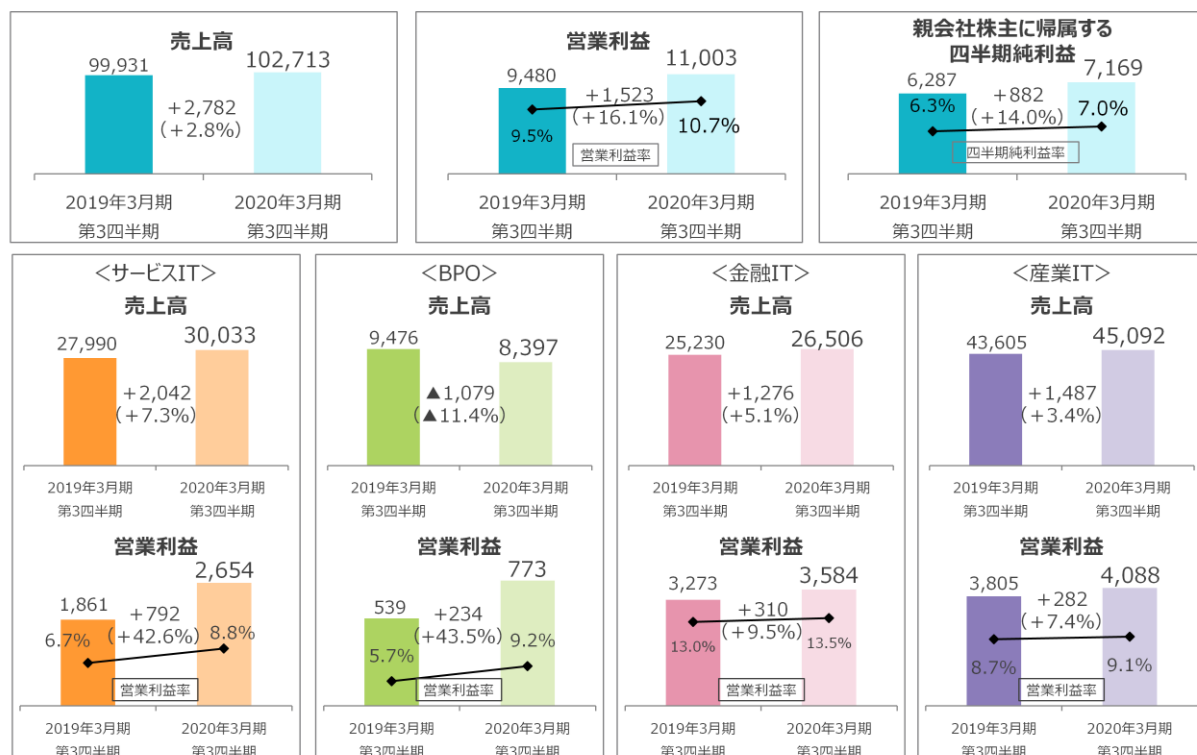
© 2020 TIS Inc.

7

- ・7ページは、営業利益の要因別増減分析です。
- ・当第3四半期累計期間では、前年同期に比べて、増収効果で38億円の利益増、収益性改善で44億円の利益増の結果、売上総利益が82億円増加し、これが販管費の31.2億円増加を吸収し、営業利益が50.8億円増加しました。
- ・なお、売上総利益率は第3四半期累計期間では前年同期比で1.5ポイント上昇し23.4%となりました。売上総利益率は直近3カ月でみると25.3%にまで高まりました。
- ・販管費の増加は、売上高増と連動する部分に加え、構造転換に向けた対応強化による費用増が中心であり、中長期的な成長に資する前向きなものだと考えています。
- ・なお、不採算案件ですが、当第3四半期は約2億円、9カ月の累計では12億円弱となりました。当第3四半期では低水準に抑制することができましたが、通期目標の達成には第4四半期の抑制継続が不可欠だと考えており、引き続き取り組みを徹底いたします。

(参考) 2020年3月期第3四半期 (10-12月)
業績ハイライト・主要セグメント別損益

(単位: 百万円)



© 2020 TIS Inc.

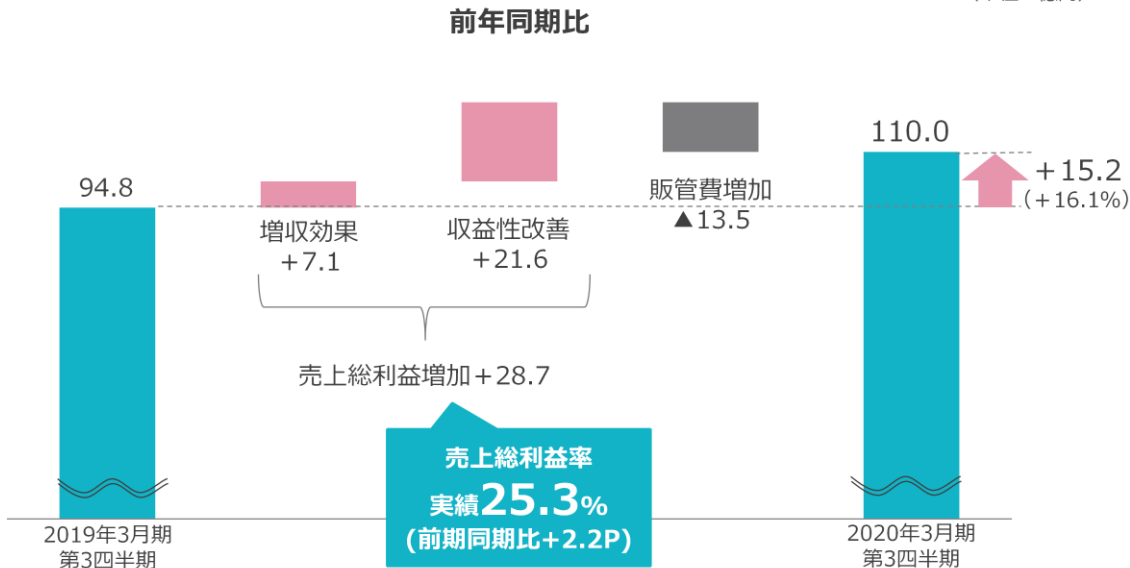
各セグメントの売上高はセグメント間の売上高を含んだ数値です。

8

- ・8ページは、直近3カ月の業績です。4つのセグメント全てで前年同期比増益となり、全体としては堅調だったと考えています。
- ・BPO の売上高が前年同期に比べて減少していますが、これは子会社売却の影響によるものです。

(参考) 2020年3月期第3四半期 (10-12月)
営業利益要因別増減分析

(単位：億円)



構造転換推進のための先行投資コスト：前年同期比+3.9

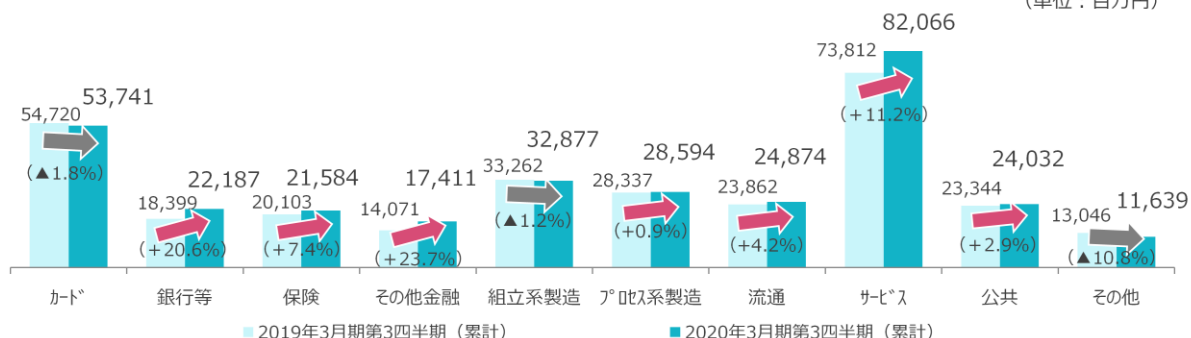
- ✓「新サービス創出のためのソフトウェア投資」
 - ✓「構造転換を促進するための人財投資」
 - ✓「先端技術獲得のための研究開発投資」
- に関するコスト

早期認知獲得のためのブランド関連コスト：前年同期比+0.8

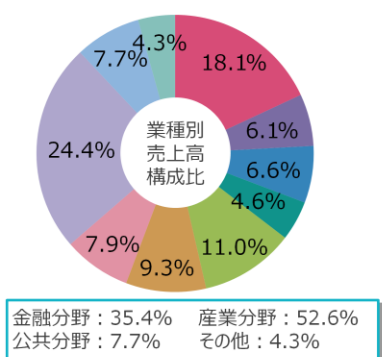
(説明省略)

2020年3月期第3四半期（累計） 顧客業種別売上高

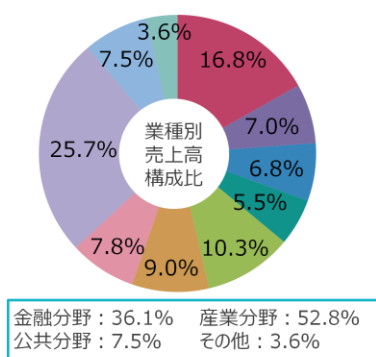
（単位：百万円）



<2019年3月期第3四半期（累計）>



<2020年3月期第3四半期（累計）>



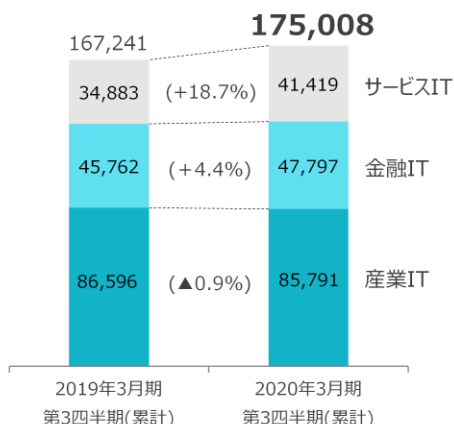
- ・続いて10ページをご覧ください。
- ・顧客業種別売上高の状況も、上期の時と傾向は大きく変わっておりません。
- ・カードが減少していますが、大型案件の反動減の影響を根幹先等の他の取引で一部カバーしている状況であり、実勢ベースで弱いわけではありません。なお、決済関連ビジネスについては、従来から取引のあるカードの他、幅広い業種で増加しており、業種別ではトレンドが説明しにくいところをご理解ください。
- ・組立系製造については小幅マイナスとなりましたが、景況感の影響を受けたIT 投資動向の変化を受けたものではなく、ERPなど案件ベースで波をうっているだけで、ご心配いただく必要はないと考えています。プロセス系製造は、子会社売却のマイナス影響を受けつつも、製造業系の根幹先顧客を中心に堅調、サービスは幅広い顧客のIT投資取り込みにより好調継続しました。

・当期受注高、期末受注残高とも前年同期比増加、堅調に推移。決済分野を中心とするサービスITが牽引。

(単位：百万円)

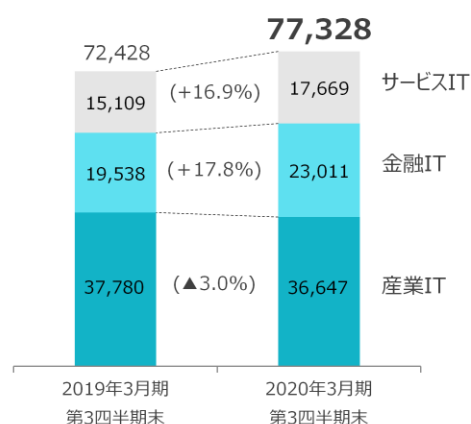
受注高

● 前年同期比 +7,766百万円 (+4.6%)



期末受注残高

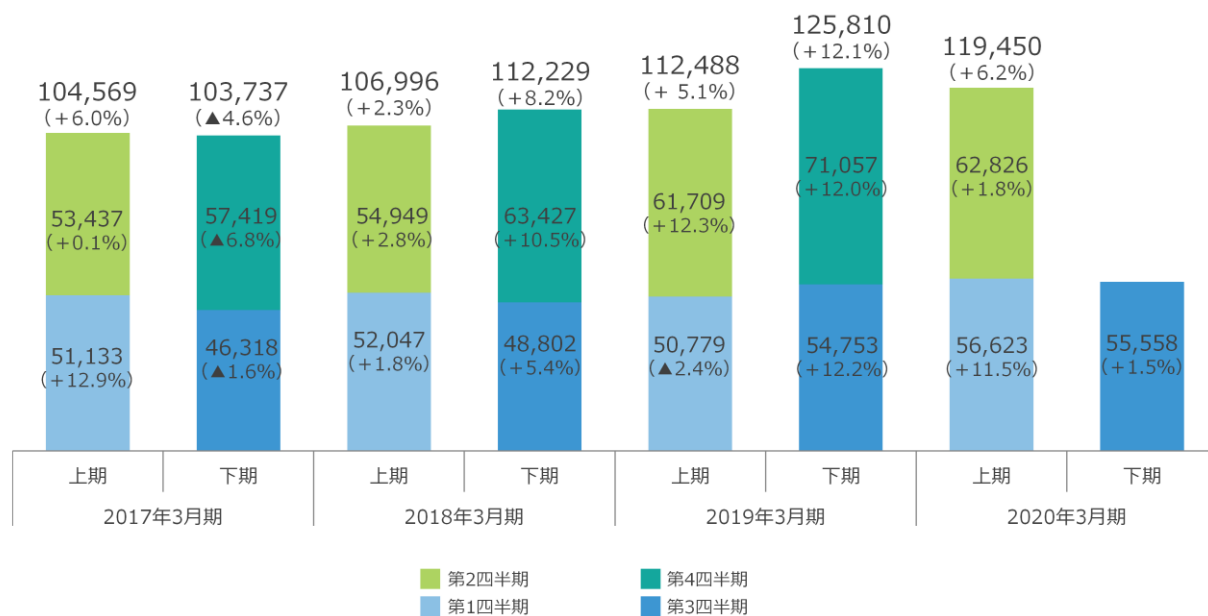
● 前年同期比 +4,899百万円 (+6.8%)



※特定顧客向け提供サービスに活用するノウハウが産業系から金融系に変更となったことに伴い、当該顧客との取引は前期は産業IT、当期は金融ITに計上されています。

- ・11ページからは受注状況を掲載しています。
- ・第3四半期累計期間の「ソフトウェア開発」に係る受注高は前年同期比4.6%増の1,750億円、受注残高は前年同期比6.8%増の773億円となり、受注高、受注残高ともに増加しました。
- ・特に、サービスITの受注高は、上期に引き続き決済関連ビジネスを中心に前年同期比18.7%となり、全体の伸びを牽引しました。
- ・一方、産業ITの受注高について、他の2つのセグメントに比べて低い点を気にされる方がいらっしゃるかもしれませんが、従前から高水準が続いていることと、個別案件の波による影響が大きかったとみています。顧客の基本的なIT投資姿勢、全体的なトレンドがこれまでと急激に変わったわけではないと考えています。
- ・全体で見れば想定線で、期末受注残は前年同期比で6.8%増であることから、良い水準がキープできていると考えています。
- ・以上が、第3四半期累計期間の実績に関する説明となります。

受注高の推移（ソフトウェア開発）



(説明省略)

受注高の推移（ソフトウェア開発、セグメント別）



※特定顧客向け提供サービスに活用するノウハウが産業系から金融系に変更となったことに伴い、当該顧客との取引は前期までは産業IT、当期からは金融ITに計上されています。

(説明省略)

2020年3月期第3四半期（累計） 業績概要

2020年3月期 業績見通し

参考資料

・それでは、通期業績見通しについてご説明します。

・堅調な事業環境の中、中期経営計画で掲げる構造転換を推進するため、成長・得意領域へ積極的な投資を実行。大型案件の反動減や投資コスト増を吸収し、増収増益を目指す。
 ⇒2019年11月1日発表の計画値より変更はなし。

(単位：百万円)

売上高

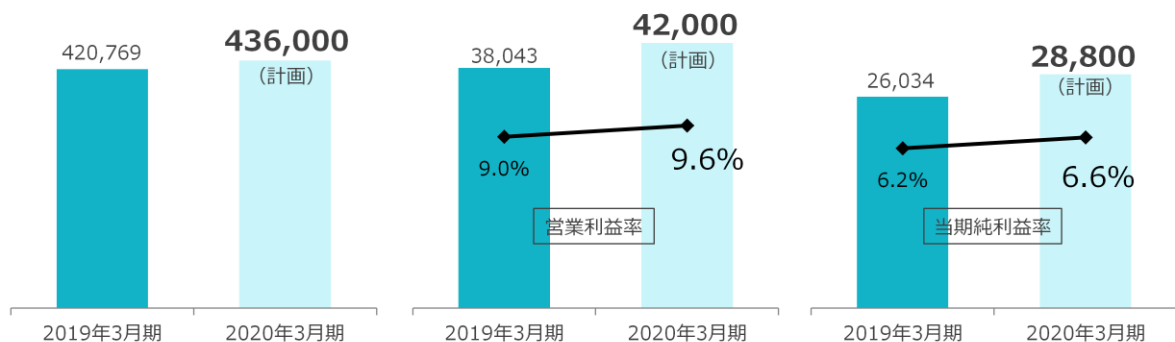
● 前期比 +15,231百万円 (+3.6%)

営業利益

● 前期比 +3,957百万円 (+10.4%)

**親会社株主に帰属する
当期純利益**

● 前期比 +2,766百万円 (+10.6%)



サービスIT及び産業ITを中心として、顧客のIT投資ニーズへの的確な対応による事業拡大を図り、子会社売却の影響を吸収し、前期比増収を見込む。

増収効果、生産性向上等を継続推進。先行投資型へのシフト等、構造転換に向けた投資等のコスト負担増を吸収し、前期比増益を見込む。

営業利益の増加や、特別損益の改善に伴い、前期比増益を見込む。

© 2020 TIS Inc.

15

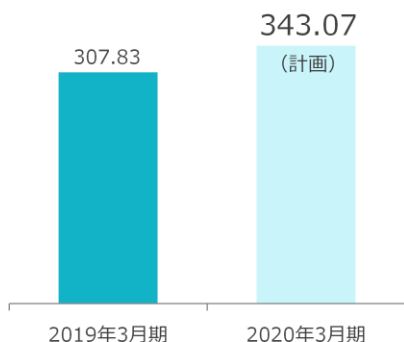
- ・15ページをご覧ください。
- ・2019年3月期の通期業績見通しについては、2019年11月1日に見直した通期予想から変更はありません。
- ・売上高は前期比3.6%増の4,360億円であり、中期経営計画の最終年度である2021年3月期の計画値とした4,300億円の1年前倒しでの達成を見込んでいます。
- ・また、営業利益は前期比10.4%増の420億円、親会社株主に帰属する当期純利益は前期比10.6%増の288億円の増収増益の計画です。
- ・第3四半期累計期間での通期に対する進捗率では前年同期よりも良い状況にあり、通期計画達成への手応えも強まってきている状況です。
- ・景気の先行きは不透明であり、新型肺炎による経済全体への影響については、状況を注視していく必要があると考えていますが、現時点では潮目が変わったり、その兆候が急速に強まっているとは感じておらず、事業環境の見方は大きく変わっておりません。引き続きIT投資が強まりを見せる分野において顧客ニーズを的確に捉えた事業展開など、諸施策を着実に推進してまいります。しっかりと着地できるよう最後まで油断せずに、通期計画の達成に向けて取り組んでまいります。

・ROEの試算値は12.1%に向上。中期経営計画の最終年度目標値12%を1年前倒しで達成する見込み。

(単位：円)

一株当たり当期純利益

● 前期比 +35.24円 (+11.4%)

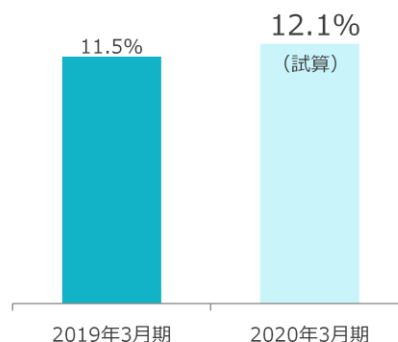


親会社株主に帰属する当期純利益の増加に伴い、前期比向上を見込む。

※ 予想 1 株当たり当期純利益は、予想親会社株主に帰属する当期純利益を2020年第3四半期末時点で算出した期中平均発行済普通株式数（除く自己株式）で除して算出しております。

自己資本当期純利益率（ROE）

● 前期比 +0.6P



通期計画の上方修正を主要因として、中期経営計画の目標値12%を1年前倒しで達成する見込み。

(説明省略)

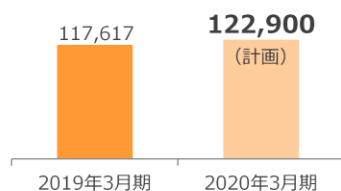
2020年3月期 主要セグメント別損益状況（予想）①

（単位：百万円）

サービスIT

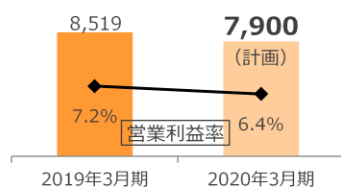
売上高

● 前期比 +5,283百万円（+4.5%）



営業利益

● 前期比 ▲619百万円（▲7.3%）

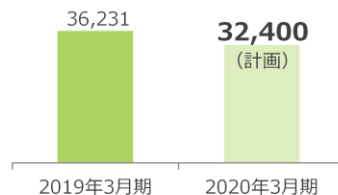


クラウド・ネットワーク等成長分野でのIT投資の取込みや、決済ビジネス、ERP需要拡大の確実な取込みにより前期比増収も、上期に計上した損失の影響により前期比減益を見込む。

BPO

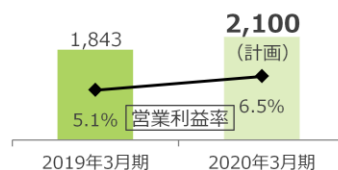
売上高

● 前期比 ▲3,831百万円（▲10.6%）



営業利益

● 前期比 +257百万円（+13.9%）



子会社売却の影響により前期比減収も、採算管理徹底による構造改革、高度化した複合型BPO事業へのシフトにより利益率を改善させ、前期比増益を見込む。

（説明省略）

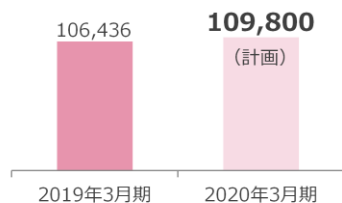
2020年3月期 主要セグメント別損益状況（予想）②

（単位：百万円）

金融IT

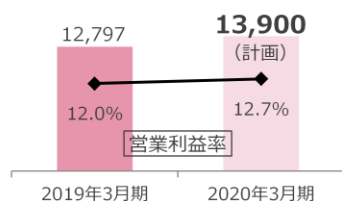
売上高

● 前期比 +3,364百万円（+3.2%）



営業利益

● 前期比 +1,103百万円（+8.6%）

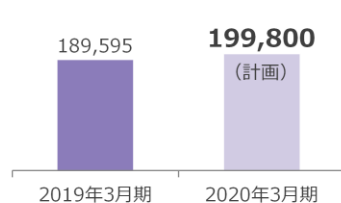


大型案件の反動減あるも、根幹顧客との関係強化や付加価値ビジネスの推進、生産性改善等により前期比増益を見込む。

産業IT

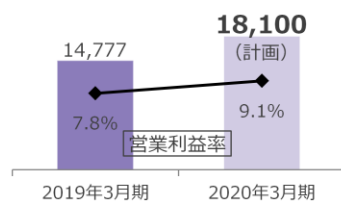
売上高

● 前期比 +10,205百万円（+5.4%）



営業利益

● 前期比 +3,323百万円（+22.5%）



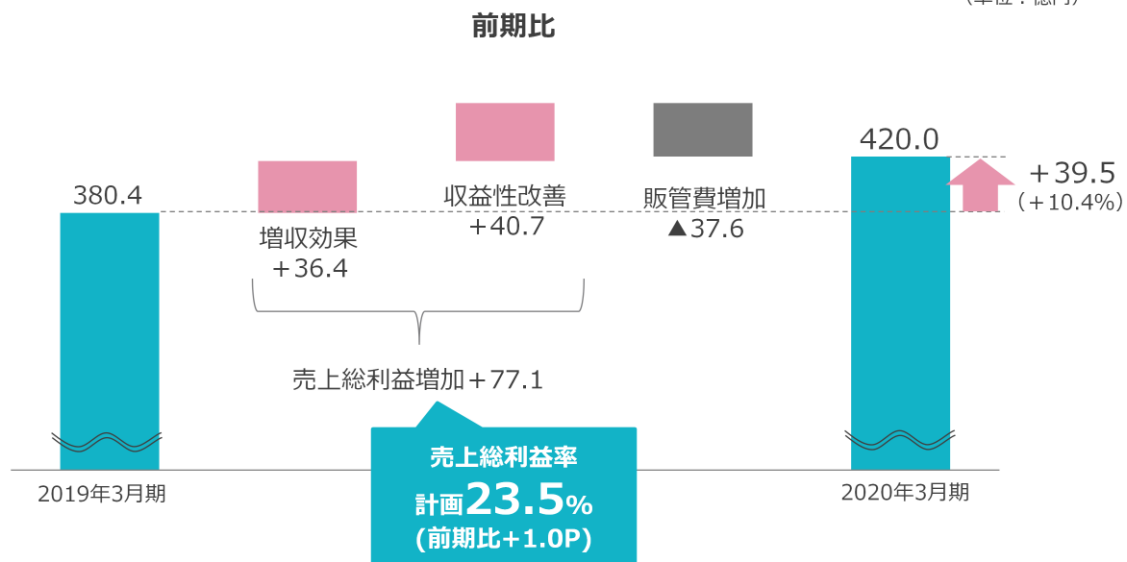
コンサル・上流ビジネス強化による高付加価値ビジネスの推進、生産性改善の取組等により、前期比増収増益を見込む。

※特定顧客向け提供サービスに活用するノウハウが産業系から金融系に変更となったことに伴い、当該顧客との取引は前期は産業IT、当期は金融ITに計上されています。

（説明省略）

2020年3月期 営業利益要因別増減分析（予想）

（単位：億円）



構造転換推進のための先行投資コスト：前期比+25

- ✓「新サービス創出のためのソフトウェア投資」
 - ✓「構造転換を促進するための人財投資」
 - ✓「先端技術獲得のための研究開発投資」
- } に関するコスト

早期認知獲得のためのブランド関連コスト：前期比 +5

（説明省略）

・2020年3月31日を基準日とする「1対3」の株式分割及び定款の一部変更を行うことを決議

■ 株式分割

株式分割の目的 投資単位当たりの金額を引き下げることにより、当社株式の流動性の向上と投資家層の拡大を図る

株式分割の概要

株式分割の方法	普通株式1株につき3株の割合で分割
株式分割前の 当社発行済株式総数	87,789,098株
株式分割後の 当社発行済株式総数	263,367,294株 (分割により増加する株式数：175,578,196株)
基準日	2020年3月31日（予定）
効力発生日	2020年4月1日（予定）

■ 定款の一部変更

変更の理由 今回の株式分割に伴い、会社法第184条第2項の規定に基づき、2020年4月1日をもって、当社定款第5条に定める発行可能株式総数を変更する

変更の内容

変更前の発行可能株式総数	280,000,000株
変更後の発行可能株式総数	840,000,000株

- ・最後に、20ページをご覧ください。
- ・本日公表しました通り、株式分割及び定款の一部変更について決議いたしました。当社株式の流動性の向上と投資家層の拡大を目的に、2020年4月1日を効力発生日として、当社株式1株を3株に分割することといたします。
- ・以上で、説明を終了させていただきます。

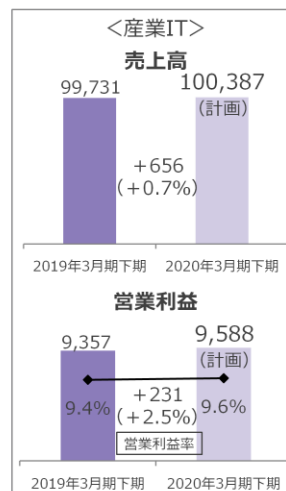
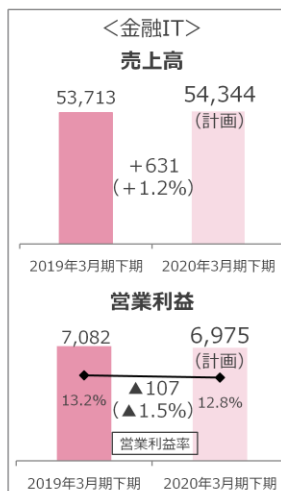
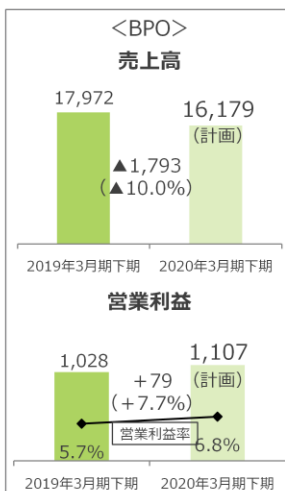
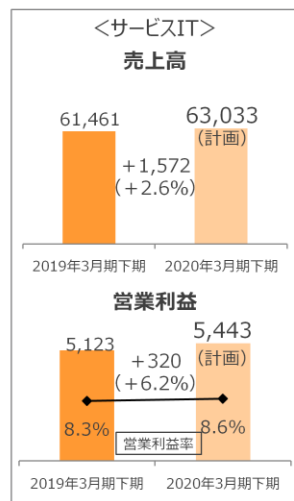
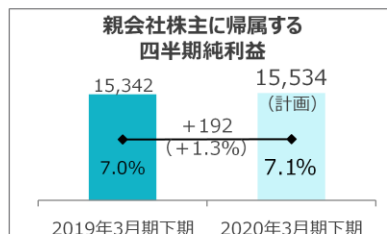
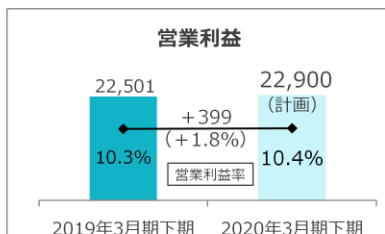
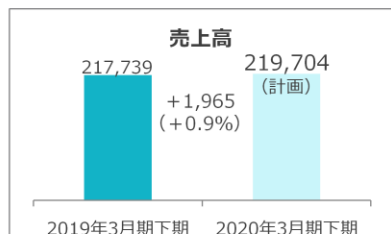
2020年3月期第3四半期（累計） 業績概要

2020年3月期 業績見通し

参考資料

（説明省略）

(単位：百万円)



(説明省略)

発表日付	タイトル
2019年10月1日	TISおよび連結子会社の人事異動、機構改革のお知らせ
2019年10月3日	マイクロメイツ、業務課題を明確化しビジネスプロセスを改革する、中堅・中小企業向け「業務課題 可視化サービス」を提供開始
2019年10月3日	クオリカ、AI技術を活かしたMD業務実現のためニューラルポケット社と提携
2019年10月7日	インテック、電子帳票システム「快速サーチャーGX」クラウドサービスの機能を強化
2019年10月11日	ネオアキシス、IBM iで「全銀協標準通信プロトコル（TCP/IP手順・広域IP網）」の利用を可能にする『Toolbox 全銀TLS+』の提供を開始
2019年10月15日	TIS連結子会社の人事異動のお知らせ
2019年10月15日	ネクスウェイ、薬剤師向け情報サイト「アスyakLABO」に薬剤師のシフトを自動生成する『アスyakSHIFT』機能を追加
2019年10月16日	インテック、不正アクセス監視サービス「EINS/MSS」にクラウド型セキュリティ監視メニューを追加
2019年10月17日	TIS、発想支援クラウドサービス「AIプレストスパーク」にスマホで利用可能な「スマホVer.」などを追加
2019年10月18日	TIS、子育てサポート企業として「プラチナくるみん」を取得
2019年10月18日	「令和元年台風15号および19号」被害への支援について
2019年10月18日	ネクスウェイとKYCコンサルティング、本人確認業務における企業向けリスクデータベース『Risk Analyze』の活用で協業を開始
2019年10月24日	過疎地域の次世代交通・エネルギー問題解決を目指すTIS参画の「ISOU PROJECT」実証実験レポートを公表
2019年10月24日	インテック、「在宅勤務制度」を導入
2019年10月25日	マイクロメイツ、「Office365 で働き方改革 事例集 ～Teams 編～」を提供開始
2019年10月28日	ネクスウェイ、多店舗の売場をカメラで管理するクラウドカメラサービス「売場ウォッチ」のβ版をリリース
2019年11月1日	連結子会社の人事異動のお知らせ
2019年11月1日	東京地区でグループの新拠点を開設
2019年11月1日	TISインテックグループのクラウド、セキュリティ、DCなどのプラットフォーム事業を強化
2019年11月5日	TIS、JFL所属のサッカークラブFC今治のファン向けイベントにVR技術で協力
2019年11月6日	凸版印刷とTIS、AI×DMPの活用でデータマーケティングの意思決定を高速化
2019年11月7日	TIS、会津若松公共交通オープンデータマラソンへの「FIWARE」の技術提供を実施
2019年11月8日	TIS、「VMware Cloud on AWS」の導入・運用支援サービスに新たなメニューを追加
2019年11月11日	TISの経費精算モバイルアプリ「Spendia」が「ASPIC IoT・AI・クラウドアワード2019」を受賞

(説明省略)

発表日付	タイトル
2019年11月11日	中央システム、顧客データのホワイトスペースを分析するサービス「WS-Analyzer」をAppExchange®で提供開始
2019年11月12日	TIS、システム導入のマネジメント業務を定額でサポートする「PMO支援定額サービス」を提供開始
2019年11月13日	TISと会津大学が自律移動するロボットを活用した搬送業務自動化の実証実験を実施
2019年11月14日	TIS、自然言語処理で企業分析を行うためのデータセット「CoARi」を無償公開
2019年11月15日	TIS、AI-OCR活用の前処理を自動化する「帳票振り分けAIサービス」の提供を開始
2019年11月18日	TIS、バルコにPAYCIERGEの「加盟店向けQR決済ゲートウェイサービス」を導入
2019年11月18日	ネクスウェイ、株式会社オリックへ「FNX e-受信FAXサービス」を提供し、3か月で25,000枚分のペーパーレス化を実現
2019年11月19日	TIS参画の八重山諸島での観光型MaaSの実証実験がスタート
2019年11月20日	TIS、トヨタのキャッシュレス決済アプリ「TOYOTA Wallet」の構築を支援
2019年11月20日	クオリカ、製造業のアフターサービス向けWEB配信パーツカタログ「PITT Qube」の新バージョンをリリース
2019年11月21日	TIS、個人情報を管理する「PDS」を活用したレストランレコメンド高度化の実証実験を開始
2019年11月21日	中央システムのクラウド勤怠管理システム「レコル」、クラウド人事労務ソフト「SmartHR」とAPIによりサービスを連携
2019年11月22日	東近江市において、XR技術を活用した観光ツアーを実施
2019年11月26日	TIS、住民IDと連携する決済プラットフォームの実証研究を会津若松市の総合病院で実施
2019年11月27日	インテック、「第34回世界トランボリン競技選手権大会」オフィシャルスポンサーに就任
2019年11月28日	TIS、東京ビッグサイトでのサービスロボット活用の社会実装プロジェクトを支援
2019年11月29日	TIS、近鉄百貨店のクラウド型管理会計システムの導入を支援
2019年12月2日	TISの人事異動のお知らせ
2019年12月2日	TIS、位置情報データ活用プラットフォーム提供のクロスロケーション社とデータ利活用領域で資本業務提携
2019年12月3日	宅配型フリーペーパーを発行のぼど、株式会社ネクスウェイと協業し、富裕層・高所得者層にターゲットを絞ったDM発送サービスを展開
2019年12月4日	TIS、リアルワールドデータをeラーニングで学習可能な「リアルワールドデータ学習サービス」を提供開始
2019年12月5日	TIS、Nutanixの導入・運用支援サービスとプライベート型クラウドサービスに「HPE ProLiant DXシリーズ」を追加
2019年12月16日	TIS、UiPath向けのポータル、全社活用パッケージ、業務テンプレートで企業の迅速なRPA全社展開を支援
2019年12月16日	ネクスウェイ、時短勤務に加えて、週5日未満の日短勤務を可能にする「SELECT TIME」を実施
2019年12月18日	マイクロメイツ、「ERP（SAP）定着化支援サービス」に最新バージョン「SAP S/4HANA®」を追加
2019年12月23日	TIS、「Oracle EBSモダナイゼーションサービス」を提供

(説明省略)



<ロゴマークに込めた思い>

新たなる挑戦の場を表現する「オーシャンブルー」と、堅実さと確かな技術の裏付けを表現する「インテリジェントグレー」の2色で表現されるロゴマークには、私たちのコアコンピタンスである『IT』2文字を包含しています。グループ各社が異なるエキスパートであり、その集合体としてのTISインテックグループの一体感、そして未来へ向かって進み続ける躍動感を表現しています。

<ブランドメッセージ「Go Beyond」>

現状に満足せず、常に新たなチャレンジを求めて「その先に向かって」歩み続ける。クライアントの課題をクリアするだけでは満足せず、クライアントのさらにその先にあるお客様のニーズを先取りして、「一歩進んだ提案をしていく」という当社グループの強い意思を表明しています。

(ご注意事項)

- ・本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、TISインテックグループ（TISおよびグループ会社）が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、当社としてその実現を約束する趣旨のものではありません。実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。
- ・各四半期会計期間（3カ月）の数値は累計期間の差引により算出しています。
- ・2019年3月期から構造転換の推進に向けた当社マネジメント体制の変更に伴い、セグメント区分を変更しています。2018年3月期の数値は変更後のセグメントに組み替えて算出したものです。

（説明省略）